

和通語

貴女部

七

9  
4062  
7



倭論語卷第七目錄

貴女部

天豐津媛命

御間城媛命

豐鋏入姬命

倭姬命

春日大娘皇女

湍部穴穗部皇女

輝子

班子內親王

押姬命

日業酢媛命

八坂入媛命

仲媛命

石姬皇女

廣井女王

因幡

一條君



昌子

坊門院

周防内侍

玉子

昭子

馬内侍

阿波内侍

大貳三位

貞子

小式部

安嘉門院

掄子

祐子内親王家紀伊

光明皇后

隆子

中將姬

紫式部

泉式部

明子

堀河

晴子

宣秋門院

兵衛佐

田子

菅内侍

清子

小侍從

小宰相

仙子

慶子

二條院讃岐

伊勢

弁内侍

從二位仲子

小野小町

江侍從

胤子

相摸

赤染右衛門

中務



池尼

覺信

伊豫内侍

源子

從三位豐子

右當内侍

右衛門佐

幸子

高内侍

德子

大納言佐

滿子

兵衛佐

永福門院

民部卿局

玄輝門院

小督局

時子

中子

松下禪尼

朝子

德子

輝子

維子

滿子

准子

勝子

久子

有子

源子

久子

源子

明子

園子

月子

豐子

貞子

長君

万君

松子



經子

糸子

平子

宝子

明子

長子

例子

覺女

輝子

重子

忠和門院

奥子

石子

藤子

龍子

倭論語卷第七

貴女部

天豐津媛曰。生氏法。うもりのなをのまか。要念。あ  
ゑ。よ。勝。と。よ。と。次。他。乃。の。小。勝。と。中。と。次。な。の。ま。に  
ま。け。他。人。よ。は。く。け。と。下。と。次。

人王四代懿德天皇后孝昭天皇母息石耳命

女也

押姫命曰。公。よ。ふ。時。を。あ。え。つ。り。あ。ま。さ。か。し。が  
よ。う。う。ぬ。時。を。あ。え。は。ら。我。と。い。う。う。う。次。公。よ。さ  
公。を。う。う。と。れ。ゆ。へ。く。は。ひ。公。う。う。あ。え。は。ら。さ。



むらうのふ

人王才六孝安天皇后孝靈天皇母天足彦国  
押人命女也

御間城姫曰。我があひむらうを産みてあのみめ事を  
けやえん。よくあえん。神乃をよかるふ。ものなり。  
あひむらうはあひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ

人王十世崇神天皇后垂仁天皇母孝元天  
皇才一皇子大産人命女也  
月業酢媛曰。物つくりむらう。よくもの物をつくり

あひむらう。かき物をつくり。よくもの物をつくり。あひ  
よわさ。もの。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ

人王十一代垂仁天皇后景行天皇母彦隅命  
子丹波道主王女也

豊鍬入姫命曰。吾神明乃み。けり。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ  
あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひむらう。あひ



伊勢齋宮之始也人王十一代崇神天皇女也

母遠津年貞眼々妙媛也

八坂入媛曰人世くばしとて氏を乃とやする  
ものなりとれきぬけり人世くばしとて  
はさじそものちて氏ぬのれんとくばしとて  
ものなりあえつら乃とていけとてあめを  
る

人王十二代景行天皇右成務天皇母崇神天

皇弟三皇子八坂入媛余女也

倭姫命曰伊勢齋宮は乃とてあえくまなりとて太

元宗神なり一念不生乃おろ人々海なり信法  
乃いそしめたりとけて神祇とあねしなり

夫神明乃内證は鏡乃如し一物をあてりて一物  
をうつとてあてりて天鏡と生れりてをよ一物を  
おろして虚室乃なりとていそしめ

まろく乃人々をのさうとてあてりてさうの時  
荒神おろひ乃まろくなりあてりて吾神は  
一念不生とすなり

あてり乃人々を念ひて神明はひうひを  
あてりあてりてを乃まろくなり地は天なり



いふゆゑ佛乃本地ハ<sup>もとより</sup>永生なり。永生乃本地ハ<sup>もとより</sup>一靈なり。一靈乃本地ハ<sup>もとより</sup>神明なり。神明乃<sup>もとより</sup>衆生なり。衆生乃<sup>もとより</sup>衆生なり。

吾神明は百味をなす。ふ日乃志あけ川てけ  
るなりんるるい一塵乃るるいをなり幣帛を

なう下  
不淨の中にあくと吾神明とや多しぬきすこと

ら我の可<sup>こ</sup>清<sup>せい</sup>さ可<sup>こ</sup>常<sup>じょう</sup>なるべし  
夫<sup>そ</sup>我<sup>われ</sup>をうやまひ。つらよはくすつて神明<sup>しんめい</sup>  
をあえうやまひ。みをやとつり。あえ乃<sup>の</sup>志<sup>し</sup>を  
さ<sup>さ</sup>師<sup>し</sup>とせよ

伊勢神宮垂仁天皇、女皇、大后、業酢媛神道  
之大祖也。日本神道以天女爲根本。

仲媛なかつゆめ余われ曰い神明しんめい乃すなは國くには生うまれくはなりををあらはす  
すはからのは吾われ玉たまのの人ひとふはくは世よともこはあはれはとはす  
とはとは吾われ神かみ明あき氏うぢををんはのの外ほかにに乃すなは極きよくををは  
やらせしやらおもふは志こころけく神明しんめい乃すなはをを一ひと事ことを



仰はゆぐまのなり

人王十六代應仁天皇右仁德天皇母也此余母金  
田屋野姬命景行天皇弟四子也五百城入彦皇  
子之子品色真若王之女也

春日大娘皇女曰まろくの人乃知の物を求るく  
も神明は供一むろまのハるるハあそ乃神の  
先ぐこあつてまのまろまのまろひくあや  
人をとくまろひるまろひくあそ乃神の  
こ

人王五代仁賢天皇右武烈天皇母也諱重

女君媛雄畧天皇子也

石姫皇女曰男子に生く神明乃を一つを不<sup>あら</sup>知<sup>さ</sup>ハ  
女子に女子小生く神徳成るハ男子なり神のこを  
あて女子をむろくハるるまろくハるるまろく

人王三十代欽明天皇后敏達天皇母也宣化天  
皇女也母皇后橘仲皇女也

渟部穴穗部皇女曰まろくの人乃知の物を求るく  
も神明は供一むろまのハるるハあそ乃神の  
先ぐこあつてまのまろまのまろひくあや  
人をとくまろひるまろひくあそ乃神の  
こ



人王三十二代用明天皇、右也聖德太子母也、母小姊君欽明天皇女也

廣井女王曰、あゝ乃人けくばくもさうぬいどのや、妙とさう次とさうは妙をみるけ人なり、その人乃けく方ととりてけぬ方とみるや

和琴道上祖也、尚侍從三位皇、閑院五宮、天武天皇才九子、二品長親王五世之孫、從五位上雄法王女也

輝子曰、男子乃女よりけさかろ公あゝば人をかるひ、けけいさき乃けくさなりとさうや

桓武天皇才十皇子仲野親王、子從四位下伊守、哺世王女也、將軍利仁室也

因幡曰、あゝ乃人か、佛のけけいさきん、一言もあゝもさう、ひさめ執り乃けく、中言さう、さうら佛乃けをさう、さうをさう、あゝさう、あゝさう、なり、けけいさき乃けけ、さうと、けけいさきをさうや

仲野親王第三子從四位下因幡守基世女也、哥人

班子内親王曰、後乃女、けけいさきんものへ、合掌乃ん







利欲なり。乃人衆欲するやてあらず

少子範子号六角内親王母成範卿女高倉院  
 皇女後鳥羽院御姊也依武畧事源信繼流給  
 云

掄子女王曰。吾泣仁義。人乃食なり。是汝ゆづ時ハ  
 山中海底。つゝ能身と類ハ。是を失ふハ。帝都  
 金殿乃中ふとく死ぬ

准三名一品中書王征夷大將軍宗尊親王女也

十三經達讀者也

周防内侍曰。やまひをのづきんに。二やまひなり。

三交におうべうかしあふ物さうに海邊へまゐ  
もとふかふなり

人王五代桓武天皇九代继仲女也

祐子内親王家純伊曰。けかちのハサの勢とて  
そ乃<sup>そ</sup>品<sup>しな</sup>成<sup>なり</sup>ふ。人<sup>ひと</sup>と生<sup>な</sup>て。そ乃<sup>そ</sup>言<sup>こと</sup>ふ。成<sup>なり</sup>ふ。ありに賢<sup>さとし</sup>  
人<sup>ひと</sup>を<sup>を</sup>て高<sup>たか</sup>敷<sup>しき</sup>ふ。おとあつづし。い。そ乃<sup>そ</sup>弟<sup>いもうと</sup>一<sup>ひと</sup>なり。

推武天皇土世民部大捕經立女也

王子曰ふ人乃ほふ一生海から成はるぬまふけ  
ふらぬるうーらほどもあやまらあくぬるゆ  
ふ海とらふのなり



右大將道總母日本之美人也或三之内大宰大  
貳堆岳女也奇人

光明皇后内裏乃御屏風がせきとひき  
人きうてまづきいばひをかきせくほけ  
びーつとも是とあてりやいりそのかほ  
かぬけりころとわたりをよるてさうほいたの  
ちもんへ三乃御佛を銭あてり神明つりを  
くもへあまひひきをかきあき物あすや  
しうひ乃事をもあてりひけりて管悪乃  
おもしろくむらひわたりしうらた時佛の身

通はあづろあそありとける

三世の佛乃をへをわきまへ聖賢れ公を  
とさまへあつやをむらうにぬきあひに銭うや  
まゆ酒乃勝負とあめ耳もちいひにかしお  
ろりかき人乃あつぬくそのむらうにをう  
ものだ悪人乃富貴ながりあひ世の来りハ  
くあん僧侶とそりゆこみうららん  
今生乃たきとあまへ別乃事ふあきあふと  
うらなこの道銭にまわぬとら乃後生にえハ  
恵と佛乃をへをうらぬまななり



大織冠之孫也淡海云弟六子也聖武天皇<sub>后</sub>孝  
謙天皇<sub>母也</sub>母正三縣大養橘子代婦人光明皇  
后與福寺西金堂本願天平宝字四年六月<sub>三</sub>  
崩六十歲<sub>二</sub>国母也

昭子曰。おれは悔いあふ時なろう。のくみかろう兄  
弟なり。我まゝに氏失ふ。兄中親子乃るもわきて  
さなり。

貞信公室昭宣公女也

隆子曰。あまひやうからぬものを友とするよりあう  
まふ。卿とてそのぬとあらんとおんぬくことか

我のそとありはる。あのとまりをせし。ふくむ  
あし  
 悪り生来とのなり。その急地乃おらり各別か  
うしろ  
 はがあらなり

号<sup>ス</sup>皇女門院別當寺人也皇太后宮亮俊隆  
卿女也

馬肉侍曰。ふふ。乃生也。此より。天乃配給。又。

左馬頭時明あうしういめ女也。哥人常道經はまやう双能とよ之。  
 中將ちゆうしやう娘むすめ曰いふ西方せいほうハ幸とよ々々也。



あつては乃ゆを消しやあひて佛鉢といふ  
 人のおろかな中乃をろかなりまじひる  
 仏のうそをばつていさけりまじひる  
 此方とていふまじひるまじひるあひてま  
 もこの方なうろひるまじひるあひてま  
 ままといふまじひるまじひるあひてま  
 ままといふまじひるまじひるあひてま  
 ままといふまじひるまじひるあひてま  
 ままといふまじひるまじひるあひてま











後一條院御乳母也母紫式部也哥人右京

門佐信孝女也

泉式部曰。客々乃。あゝあゝいふ。時我の悪う

まふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

いふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

我の悪う。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

上東門院女房哥人也藤原資高女也或大

雅致女也

貞子曰。男子あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

さういふ。あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

あゝいふ。さういふ。あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

あゝいふ。さういふ。あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

あゝいふ。さういふ。あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

紀有常女房也父右大臣内膳也本朝貞女三人

之内才二番也

明子曰。男子あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う

さういふ。あゝいふ。さういふ。あゝいふ。時我の悪う



















菅内侍曰。その物も我うありて。おのゝこさほしむ  
ものへをさく。金玉砂をかき。ほし。ひまがら  
あやほり。乃ち。せんがり

号。和子。權大納言。和長。女也

小町曰。あう。露乃。砂。さ。え。さ。う。や。ひ。ひ。の。を。一  
さう。や。から。す。さ。ぬ。く。さ。く。う。ひ。う。お。あ。と。さ  
と。あ。や。い。ん。若。乃。さ。う。わ。乃。も。世。中。な。あ。い  
よ。公。の。さ。ゆ。さ。さ。わ。お。ひ。さ。て。う。あ。ま。に  
公。乃。浪。さ。う。さ。う。事。あ。う。ま

小野氏。生。羽。守。良。實。女也。本朝。無。双。女。權。才。一。次

人也。法界寺。本。親

清子曰。法師。さ。う。う。お。や。う。か。ぬ。の。は。わ。り  
人。は。ま。乃。さ。う。の。や。う。さ。り。も。ば。世。乃。は。う。か  
ひ。月。く。小。金。常。乃。く。さ。ひ。か。と。さ。も。あ。ん。が。ん。の。乃  
悪。息。う。と。あ。う。さ。う。う。や。ま。が。う。う。さ。う。あ。う。と  
あ。ひ。て。お。あ。の。あ。う。さ。あ。う。う。さ。う。と。わ。さ。う。ね  
さ。う。あ

号。清。少。納。言。枕。草。子。之。撰。者。肥。後。守。元。補。女也  
江。侍。氏。同。との。も。さ。う。し。た。れ。の。音。悪。い。お。う。さ。あ。い  
う。さ。さ。さ。う。音。い。う。は。り。悪。い。さ。う。う。や。じ。う。さ。う。音







女也

相摸曰。吾身に他人をよりあひうき人をもよりや。  
おもしろ。は。乃。事。なり。ば。外。は。心。を。入。く。と。と。海。へ。お。  
う。へ。さ。事。あり。後。人。は。好。つ。つ。なり。

相摸乃拵つるまゝとん是なり一不宮、女房乙約後

一說保胤女又兵部補云濟女之

仙<sup>せん</sup>子<sup>し</sup>曰<sup>い</sup>が<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>  
 の<sup>の</sup>世<sup>よ</sup>は<sup>は</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>  
 出<sup>い</sup>づ<sup>づ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>  
 人<sup>ひと</sup>乃<sup>なり</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>

万<sup>マン</sup>里<sup>リ</sup>乃<sup>ノ</sup>ぬぐひとなりま<sup>マ</sup>と<sup>ト</sup>より<sup>ヨリ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>ガ

内大臣實宗之女京極女御定家女室大納言為家之母也

赤澤右衛門曰。公乃にあかきものなり。公浅うごかして  
 公とやらん。あかき公なるを浅安とて。公をやと  
 んせど。あかて乃人あか安とんせとくる。一めく公  
 一めく浅安とん。公を公とせ。一生公乃まのくを公

大盛物兼盛女奇人也

慶子<sup>けいし</sup>曰人乃吾<sup>われ</sup>と云ていふ<sup>いふ</sup>汝<sup>なんぢ</sup>す<sup>す</sup>先<sup>まづ</sup>人乃<sup>ひと</sup>惡<sup>わる</sup>と云て  
る<sup>る</sup>汝<sup>なんぢ</sup>よりぞ<sup>ぞ</sup>け。是<sup>こゝろ</sup>を<sup>を</sup>乃<sup>なんぢ</sup>す<sup>す</sup>むと云なり



号<sup>ス</sup>中<sup>ニ</sup>勢<sup>ト</sup>奇人也伊勢女母伊勢守继蔭女也

中勢同とる世のかみつゝとるをろくろ黒財とを  
とせん。又とあのめがやうに吾師と求る人が  
吾師にななり。黒財はとるなり。末をうてなすとす  
のふがやう

小一条院女房哥人也因幡守致貞女

池尾曰。拵<sup>いそ</sup>りたるもの<sup>もの</sup>をぬき<sup>ぬ</sup>け<sup>け</sup>がこころ<sup>こころ</sup>のよく  
よく<sup>よく</sup>。徳<sup>とく</sup>の<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>邪<sup>よこしま</sup>斗<sup>た</sup>と<sup>と</sup>や<sup>や</sup>。あ<sup>あ</sup>免<sup>めん</sup>を<sup>を</sup>あ  
免<sup>めん</sup>と<sup>と</sup>して<sup>して</sup>。づ<sup>づ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>や<sup>や</sup>せん<sup>せん</sup>もの<sup>もの</sup>は<sup>は</sup>。む<sup>む</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>  
もの<sup>もの</sup>なり

平忠盛字賴盛弼母少納言家兼女也

大納言佐田。女を責むるに。長しと云ふ。あまゝあり  
とて。一筋に公試き。いづるを申下し。きこふハ位  
者。こゝろ乃。業の爲より。あゝとて。貞公を責む  
よ。あゝハ。女とは云を。うけ

平重衡、軍妻三位典侍、哺子安徳天皇、御乳母權大納言國經、女也。

覺悟かくご曰いをのまうよふはをあらんをこゝろとあら  
人なりなり

月野左衛門佐廣綱室親鸞上人女也今本乳



寺開基

満子曰。人ほは外乃みゝ通すうかへ内乃ささ  
さのかし。外乃かこさくは内乃これあう人か  
人毎は内外は吾利なりや。と。内外はうちあか  
るし。さのぬ乃勇と。臆は内外あふ事。又。外  
し。ちのいあらあ。か。は。端どるう。ひ。

佐藤庄司、後家次信忠、信也、且十郎清經、蓋世。

曰秀衡好甚誤也

作いよの内侍曰。あづく乃人結。言葉乃さうにい出くハ  
グくううああ物ものああくく次つぎ。ああののううににああてて言葉ことばのの後のち又また

何人かありてなりぬ言葉と業は

爲秀心母左京太史重名女也

兵束佐目。世乃人衆人。汝用捨する。汝も人。保録は  
乃ちめ、汝にけく。その人乃ちわと。言その旨也。とや  
ら。さ。ゆう。捨ふ。あつ。付い。その人。吾人となり。或付へ  
悪人なり。終に吾惡乃ちうらり。あ

桑議兼茂心女哥人也

源子曰。うらひす。さけ事。成あ。る。を。免。止。物。の  
なり。を。か。ま。す。を。い。ふ。か。に。を。の。ま。り。い。ら。ふ。こ。こ。



とさひあゝぬといふあすさひ人とも世いふま  
もて君ふあるや

右大將頼朝卿母勢田大宮司季範女也

永福門院曰世いふあすさひものあつたふかどう  
うも人乃まつもとおろろものたうあ  
さうも乃ほろさあ人乃慈恵乃がさういふ  
あ人乃世いふもてつわしき人あまのりあさうと  
なり。是うあさうあつたなり

三位藤原基輔女弟人也

從三位豊子曰あけきものいふともなり。す

ありのあつたばあさものかあつた人  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
乃あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

大江清通室定姫也

民部局曰あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

後堀河院典侍弟人也權中納言定家女也

勾當内侍曰あつたあつたあつたあつたあつたあつた



あくいをあらうとてせむひより通と時あふた  
ては乃とほみくをあらう人をいふ然とまくみ  
そとのあはれあふらうとて人あふ人あ  
後醍醐天皇内侍従二位經平女行旅を孫女  
新田左兵衛督義貞女房也  
玄輝門院入王九十一代伏見院乃御母云なりとし  
肉重造替なり一時御後乃人といふせらとけり  
いひしをえ給なりとてすてよ遷幸の目なり  
なりけり玄輝門院一境ありて因院あり  
こころあふはまうくやうりなりてうなりや

宮ひけり人そを感なりすかりとて  
後小遷幸なりなり是はあふなりとてまはくあら  
あふりけりあやまりけりあはくまきり

伏見院母云洞院山階左大臣實雄女也

右米佐曰母人乃かり傳はまきりて一あり  
ていれありとてせはなりあふなりとてまはく  
人あふなりとてせはなりとて母にけりなりあり佛乃  
あふりていれありとてせはなりとて母にけりなりあり  
乃人あふなりとてせはなりとて母にけりなりあり  
いれなりとてせはなりとて母にけりなりあり



あろやろの。室よりあろやろなり。理はあろやろ  
はろやろなり。

高松院女房寺法眼寛慶女也

小指局のや。と。半代。つ。あ。と。その。お。め  
そ。う。か。ぬ。人。乃。さ。う。が。う。あ。は。ひ。あ。ん。ど。う。い  
た。う。さ。う。

小指乃つ。あ。ひ。い。さ。倉院女房也。お。乃。名。人。さ。う。い。は。し  
言。と。さ。う。く。さ。金。院。か。う。あ。ひ。な。う。ひ。と。う。り  
か。う。一。乃。あ。う。こ。と。女。房。あ。く。内。裏。あ。う。時。い  
傍。あ。乃。女。房。さ。う。り。た。く。他。人。は。さ。う。さ。う。さ。う。こ

乃。あ。の。あ。や。ま。り。さ。か。に。か。う。と。う。ひ。ま。さ。と  
さ。う。ひ。く。な。り。秘。し。む。事。秘。あ。う。け。か。と。な。り  
秘。あ。う。さ。う。い。う。ん。か。か。一。や。う。な。り

幸。子。曰。夫。さ。と。れ。く。い。な。し。も。と。れ。く。女。乃。何。う。よ  
と。物。あ。さ。う。い。う。と。あ。う。か。う。さ。う。さ。う。一。あ。は。ひ。う  
あ。う。ひ。二。か。な。う。も。の。な。り。さ。う。い。う。さ。う。い。う  
さ。う。い。う。一。あ。う。と。女。い。け。さ。う。さ。う。の。あ。う。か。と。こ。乃  
い。う。さ。う。ひ。あ。う。い。う。百人。百人。さ。う。と。さ。う。さ。う。さ。う  
か。い。て。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。の。な。り。い。う。さ  
と。い。こ。い。か。さ。う。さ。う。て。骨。ハ。粉。い。う。さ。う。さ。う。い。う。ハ







權大納言宣胤女今川氏親朝臣家也氏輝義  
元母也

徳子曰。からぬ人乃くせりて。きつて。乃藝。ふま  
して。おひうゑて。後人。はゆ。て。その。なる。よ。と  
あ。も。て。も。や。せ。内。づ。く。は。ね。款。さ。う。ま。を  
な。有。さ。て。じ。つ。か。く。と。教。つ。ぬ。る。り。何。あ。て。も。人  
乃。き。う。つ。と。あ。る。事。を。あ。ら。ひ。ゆ。て。ハ。國。家。の。為。な  
ま。ん。中。の。や。の。さ。ひ。あ。ら。ぬ。今。て。し。づ。ひ。を。ま。あ  
て。を。け。ね。ら。ま。な。り。う。ら。ぬ。人。は。何。と。も。修  
し。ゆ。ま。ハ。が。り。あ。る。人。乃。公。孫。あ。と。は。ぬ。は。あ。と。神。お

まは。あ。う。ぬ。方。で。よ。ま。なり

内大臣秀房女太宰大貳大内義隆室賢女也  
松下孫尼乃許。相州時頼を後。入。た。ま。の。時。孫。尼  
と。け。う。な。あ。ま。を。は。障。子。を。と。る。つ。張。垂。さ。れ。る  
が。孫。尼。乃。許。に。特。田。保。介。義。宗。の。母。乃。孫。尼。あ。て  
あ。げ。る。是。と。さ。て。それ。う。修。う。は。然。を。ぬ。ら。ん。の  
よ。中。解。ら。る。と。垂。さ。す。ん。い。て。な。ま。て。か。る。下。や。が。よ。ら  
ま。う。ら。孫。尼。の。母。の。男。あ。海。が。細。い。う。を。海。さ。ら  
し。や。そ。孫。尼。り。て。お。ら。う。け。る。義。宗。や。け。う。ま  
一。る。つ。い。ゆ。さ。ら。な。り。て。み。ら。け。し。あ。ひ。う。ま。れ



朝<sup>あさ</sup>は<sup>あさ</sup>作<sup>あさ</sup>付<sup>あさ</sup>く<sup>あさ</sup>秩<sup>あさ</sup>も<sup>あさ</sup>一<sup>あさ</sup>時<sup>あさ</sup>禄<sup>あさ</sup>尼<sup>あさ</sup>回<sup>あさ</sup>も<sup>あさ</sup>通<sup>あさ</sup>も<sup>あさ</sup>の<sup>あさ</sup>す<sup>あさ</sup>ハ  
 一<sup>あさ</sup>物<sup>あさ</sup>は<sup>あさ</sup>金<sup>あさ</sup>ふ<sup>あさ</sup>も<sup>あさ</sup>ある<sup>あさ</sup>如<sup>あさ</sup>く<sup>あさ</sup>も<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>ち<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>さ<sup>あさ</sup>く<sup>あさ</sup>入<sup>あさ</sup>て<sup>あさ</sup>こ<sup>あさ</sup>せ  
 て<sup>あさ</sup>者<sup>あさ</sup>大<sup>あさ</sup>將<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>通<sup>あさ</sup>ハ<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>れ<sup>あさ</sup>く<sup>あさ</sup>一<sup>あさ</sup>ま<sup>あさ</sup>の<sup>あさ</sup>沙<sup>あさ</sup>は<sup>あさ</sup>よ<sup>あさ</sup>お<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>ひ<sup>あさ</sup>つ  
 う<sup>あさ</sup>ち<sup>あさ</sup>ん<sup>あさ</sup>そ<sup>あさ</sup>わ<sup>あさ</sup>く<sup>あさ</sup>そ<sup>あさ</sup>お<sup>あさ</sup>く<sup>あさ</sup>通<sup>あさ</sup>い<sup>あさ</sup>る<sup>あさ</sup>な<sup>あさ</sup>ト

松下禪尼小糸四代相模守平時氏室西明寺時

頼母也秋田城久義景姉也

朝<sup>あさ</sup>子<sup>あさ</sup>同<sup>あさ</sup>お<sup>あさ</sup>ろ<sup>あさ</sup>に<sup>あさ</sup>ま<sup>あさ</sup>て<sup>あさ</sup>似<sup>あさ</sup>神<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>い<sup>あさ</sup>る<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>じ<sup>あさ</sup>う<sup>あさ</sup>を<sup>あさ</sup>お<sup>あさ</sup>れ  
 て<sup>あさ</sup>物<sup>あさ</sup>毎<sup>あさ</sup>よ<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>ら<sup>あさ</sup>ぬ<sup>あさ</sup>人<sup>あさ</sup>ま<sup>あさ</sup>う<sup>あさ</sup>れ<sup>あさ</sup>ぬ<sup>あさ</sup>中<sup>あさ</sup>ま<sup>あさ</sup>な<sup>あさ</sup>ど<sup>あさ</sup>う<sup>あさ</sup>ど  
 と<sup>あさ</sup>う<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>も<sup>あさ</sup>後<sup>あさ</sup>継<sup>あさ</sup>ハ<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>ら<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>も<sup>あさ</sup>の<sup>あさ</sup>な<sup>あさ</sup>り<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>賢<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>て<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>く

を<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>り<sup>あさ</sup>て<sup>あさ</sup>う<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>れ<sup>あさ</sup>ぬ<sup>あさ</sup>人<sup>あさ</sup>ハ<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>ら<sup>あさ</sup>人<sup>あさ</sup>み<sup>あさ</sup>を<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>て<sup>あさ</sup>め<sup>あさ</sup>て  
 ま<sup>あさ</sup>う<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>も<sup>あさ</sup>と<sup>あさ</sup>か<sup>あさ</sup>ら<sup>あさ</sup>う<sup>あさ</sup>に<sup>あさ</sup>後<sup>あさ</sup>継<sup>あさ</sup>あ<sup>あさ</sup>ら<sup>あさ</sup>の<sup>あさ</sup>な<sup>あさ</sup>り

庭田大納言深重賢卿女後柏原院母后准三

后号蒼玉門院

久<sup>い</sup>子<sup>こ</sup>曰<sup>い</sup>く<sup>こ</sup>と<sup>い</sup>え<sup>こ</sup>す<sup>い</sup>ら<sup>こ</sup>酒<sup>い</sup>代<sup>こ</sup>あ<sup>い</sup>ひ<sup>こ</sup>て<sup>い</sup>世<sup>い</sup>の<sup>こ</sup>さ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>

徳<sup>とく</sup>子<sup>こ</sup>曰<sup>い</sup>く<sup>こ</sup>人<sup>とく</sup>乃<sup>とく</sup>倍<sup>とく</sup>性<sup>とく</sup>を<sup>とく</sup>一<sup>とく</sup>と<sup>とく</sup>あ<sup>とく</sup>る<sup>とく</sup>也<sup>とく</sup>。土<sup>とく</sup>家<sup>とく</sup>倍<sup>とく</sup>よ<sup>とく</sup>う<sup>とく</sup>ら<sup>とく</sup>と<sup>とく</sup>



人乃をまかりをまつてみるに百人百人  
あり。俗性ありき人乃をみるに、次悪況ありのあり  
いふすてをみるに、まかりなり

又おかし物か、乃時とあらん。じつと  
人乃をみるに、乃時とあらん。じつと  
さまは、まかりあり。おかし物か、乃時とあらん。じつと  
人乃をみるに、乃時とあらん。じつと  
てみるに、百人百人あり。是れ、まかりなり

足利左兵衛督源成氏朝臣女六角三頼  
朝臣室

源子曰。世のなり。おかし物か、乃時とあらん。じつと  
人乃をみるに、乃時とあらん。じつと  
さまは、まかりあり。おかし物か、乃時とあらん。じつと  
人乃をみるに、乃時とあらん。じつと  
てみるに、百人百人あり。是れ、まかりなり

就尾中納言隆康女權中納言量光母也  
輝子曰。がは。生死あり。生死あり。生死あり。生死あり  
生死あり。生死あり。生死あり。生死あり。生死あり。生死あり  
生死あり。生死あり。生死あり。生死あり。生死あり。生死あり

勸修寺教秀公女内大臣實隆公室也  
明子曰。がは。生死あり。生死あり。生死あり。生死あり  
生死あり。生死あり。生死あり。生死あり。生死あり。生死あり







がこころ乃人よむ<sup>じ</sup>方<sup>さ</sup>はあ<sup>ら</sup>ぬ<sup>ら</sup>よ<sup>う</sup>こ<sup>せ</sup>世  
 のよこ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>もあ<sup>ま</sup>してあ<sup>ま</sup>ず<sup>う</sup>上<sup>う</sup>乃ひり<sup>り</sup>よて<sup>ら</sup>こ  
 もて<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>ん<sup>い</sup>もよむ<sup>ま</sup>ハ<sup>ハ</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>乃<sup>乃</sup>む<sup>む</sup>あ<sup>あ</sup>  
 る<sup>る</sup>

三條太政大臣實喬公女具平親王室也

月子曰。西明寺時。賴諸國と先づりて。民乃くは  
 一<sup>い</sup>世<sup>よ</sup>乃<sup>の</sup>か<sup>の</sup>れ<sup>る</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>長<sup>ぢやう</sup>き<sup>き</sup>と<sup>と</sup>こ<sup>こ</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>執<sup>しやく</sup>約<sup>やく</sup>せ<sup>せ</sup>ら  
 ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>む<sup>む</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>語<sup>ご</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>世<sup>よ</sup>乃<sup>の</sup>  
 人<sup>ひと</sup>乃<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>な<sup>な</sup>き<sup>き</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>う<sup>う</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>か<sup>か</sup>ひ<sup>ひ</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>賴<sup>らい</sup>  
 仁<sup>に</sup>泣<sup>な</sup>わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>歎<sup>たん</sup>な<sup>な</sup>き<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ざ<sup>ざ</sup>ば<sup>ば</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>に

なり。東國乃曰決にあらざるなり。と。あらぬ  
はをいふことなり。る由をあらう。学者乃  
もがはるなり。をいふ。けり。ふ。こ  
か。けり。

柳原惡相廣光卿女後法性寺園白家女孺也

准子曰。物<sup>もの</sup>をみかめらるゝとて。その乃<sup>たうじん</sup>乎<sup>や</sup>人<sup>ひと</sup>あ  
 りて。そとく人<sup>ひと</sup>をわきまけり。あるは。いふべし人の  
 うへより物<sup>もの</sup>にあつても。是人<sup>これ</sup>を好<sup>このむ</sup>つとも。あやそ  
 人とあやそする人<sup>ひと</sup>に世<sup>よ</sup>にあらさ。わがうけこころを  
 下にさる<sup>さ</sup>れどして。人<sup>ひと</sup>をみえとする人<sup>ひと</sup>ありとあや一















生何乃乃成々修一もん。おろなる守れおる  
なり

後柏原院典侍覚道親王母庭田大納言雅行  
卿女也

松子曰人乃々み深きくるとあきどる成々  
多々あひのぞる乃ゆきとるおなり

関白冬通云女成忍寺関白室従三位

經子曰一塵乃無もいひなりゆききなり  
言をあらあきききなり一言いなりなり  
答るなりとるなり物なり。もの先をいなり出く

はいつものまれば海と人なぬきき道の  
んや。いなりなりなり

関白尚經云女関白平房室従二位

あ子曰あやしき人乃物なりなりおの  
つハ安きなり又ハ安きなり人なりハ  
きからぬなり。成々なり。あきなり。き  
なり

將軍義晴云女佐貴後領義實云室義秀

卿母

平子曰物なりなりなりなりなりなりなり  
なり



あゝ人々は歌味あかき人なりやまゝ  
と金玉とやまゝふたふたつとぬがうま

室

室子曰人乃もはうりい主人を討たうりやま  
ひるい主人を討たうりい根の眷属をひく  
及逢ていぬていその天おほきなり軍破  
て身肉やまからうりいなり三子家乃事を  
わいしゆ人あうりいといふとげうりいをまゝさば  
人いあうりい

六角氏綱朝臣女京極武藏守高秀室高吉

母

明子曰との母はあうりいもの人乃もあかり  
乃せよ公卿あうりいぬがうりいあうりい  
何時いあうりいを京極をけうりい室にありぬ人乃  
か乃ぬとあらと

平信長公姉飯尾隠岐守信宗室也

長子曰世乃中れ人あうりいつと氏能えもの人なり  
その事とつとびらうりいあうりい人乃あうりい何  
も能ありあうりい人乃あうりいあうりいものなり







國白晴嗣女准三右国母

奥子曰昔人の世の人成来すようぬ人へ傳承と  
交するが故に人乃友とく人あぬを交すうの故  
る。世のまゝ人あぬ事と恥ぢるが

世中乃人あぬ心うをいへてとてをいふのを

政阜中納言平秀信の女佐々貴後領義邦朝臣  
室氏卿朝臣母也

石子高。まろく乃人のとくはしむ事よ付てその  
若あり。まろくをいへるより也。是をまろくさか人へ實  
さるの若ありとてみるにぬる次

國白豊臣秀吉の才大和犬納言秀長女也森  
作守室

藤子曰まろくも貴か。まろくはとわしかう次。まろく  
とる乃おとあひまろく

まろくひいなる成初らまろくと大か。これまろくさ  
保。世の若あり

まろくまろくつらまろくおろく。まろくあしぬまろく  
一。まろく乃まろくまろく。勇勢ある成り。やまろく

万能ありて世の心をまろく。聖賢の約ありて。勇  
まろく。まろくまろく。是まろく乃まろくなり







